

東京グループ
JAグル

コンパス導入し標準・省力化 全国運用第1号

【東京】JA東京グループは20日、JA東京中央会の理事会で、JA全中が進める情報システム

の全国共同運用を活用してコンパスJAを導入することを決めた。共同運用は、各都道府県の情報センターが主体となって担っている情報システム

のメンテナンス、バックアップなどの機能を、県域を越えて運用するもの。共同運用に参加を決めたのは、同グループが初めて。

同グループは、第29回JA東京大会の決議に基づき、コンパスJAの導入に向け準備を進めている。JA、中央会、連合会で組織するコンパスJA導入準備委員会は昨年12月、検討を重ねてきた

コンパスJA導入について導入案を作り、①全国共同運用センターで運用すること②2012年4月を稼働のめどとするところ——などとした。

中央会の村野弘一会長は「JA大会の決議に基づき、コンパスJAの導入に向け検討を重ねてき

平成23年1月21日付
日本農業新聞

た。情報システムのコスト削減は、将来のJAのために避けて通れない課題だ。県域を越えた共同運用に参加することが、将来のJA東京グループのために大きく寄与することと確信している」と話した。全中の土屋博常務は「全中が取り組むシステムの標準化・集約化とコスト削減のための共

同運用に、一番でJA東京グループが参加を決めてくれたことに感謝したい。栃長野県協同電算を共同運用センターにすることは決まっており、参加する道府県は順次増加する予定。12年4月に稼働できるよう、全中も全力で取り組んでいきたい」と話した。

コンパスJAは、JAグループ情報基本構想のもと、JAの会計、経営管理業務の標準化、高度化へ向けた全国システムで、既に全国26府県で稼働している。情報システムの共同運用は、第25回JA全国大会決議の「情報システムの標準化・集約化とコスト削減」の具

体化として、全中が取り組んでいる。